

令和6年産

大崎稲作情報 第5号

令和6年7月2日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今後の管理のポイント

- ✓ 中干し後～幼穂形成期の適切な水管理を行いましょう。
- ✓ 収量の増加や品質の向上のため、適切な追肥を行いましょう。

1 気象経過（前5か年間平均値との比較）

6月第2半旬以降の気温はかなり高くなりました。第3、4半旬の日照時間はかなり多くなりました。第5、6半旬には降雨がありました。東南北部は6月23日ごろに梅雨入りしたと見られます（平年6月12日ごろ）。

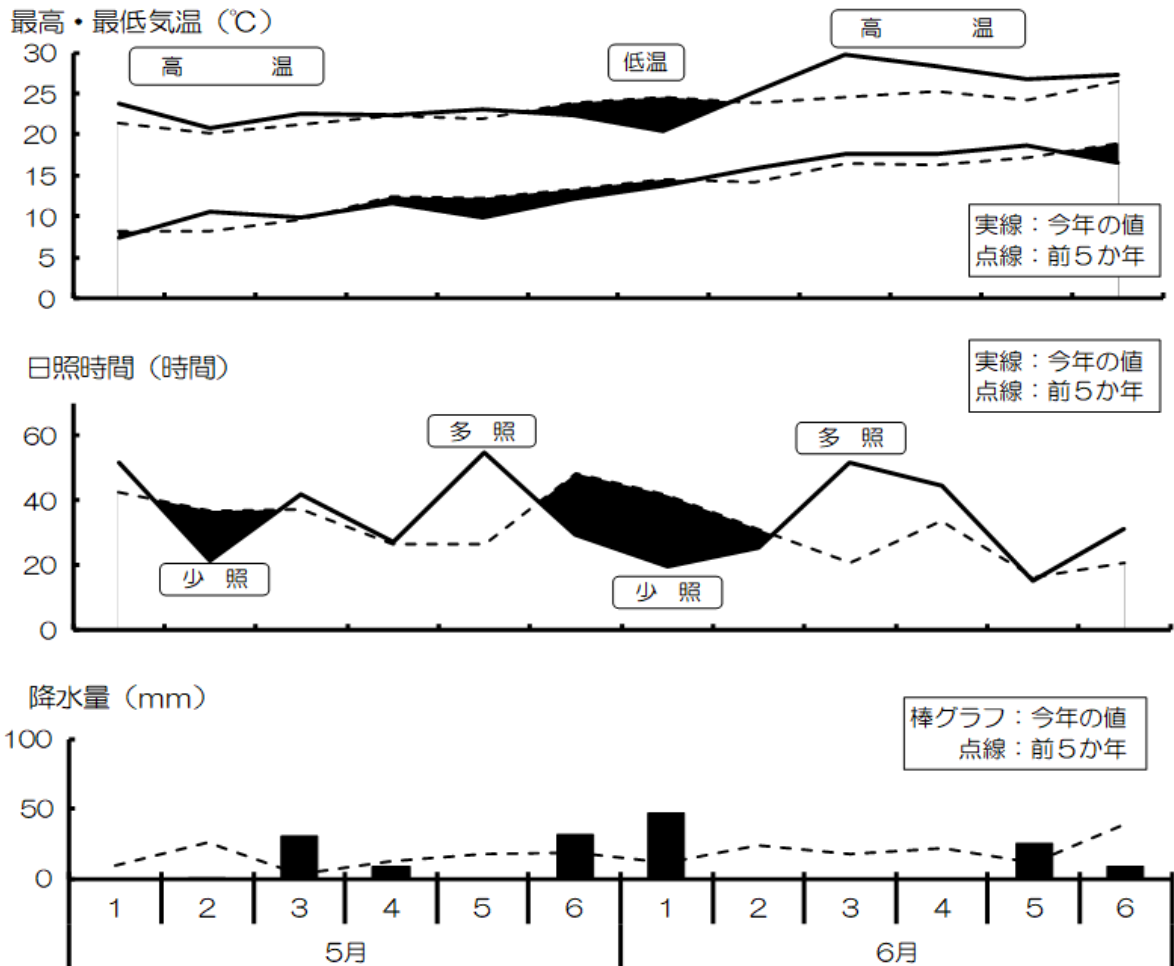


図1 5・6月の気象（古川アメダス）※前5か年平均値との比較

2 生育概況（7月1日現在）

6月第2半旬以降は概ね高温多照で経過したことから、生育は平年より進んでいます。ほ場平均値は、草丈、葉数及び葉色は平年を上回り、茎数は96%でほぼ平年並です。5月連休中に移植したほ場では幼穂が確認され、まもなく幼穂形成始期に達する見込みです。

晩期移植ほ場ではようやく茎数が目標茎数に達しました。

表 1 生育調査結果

品種名	地区名	田植日 播種日	草丈(cm) (平年比)	莖数(本/m) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) 幼穂形成始期	備考
※ひとめぼれ	大崎市三本木	5月3日 (-1)	60.0 (107%)	623 (111%)	10.4 (+0.5)	44.0 (+0.9)	0.8	
※ひとめぼれ	加美町小野田	5月18日 (+1)	49.5 (101%)	452 (93%)	11.0 (+1.2)	47.1 (+2.5)	—	
※ササニシキ	大崎市古川	5月6日 (-2)	53.5 (105%)	519 (93%)	10.2 (+0.2)	44.0 (+0.4)	—	
※つや姫	色麻町四竈	5月4日 (0)	59.4 (112%)	523 (89%)	11.3 (+1.3)	39.6 (-4.8)	—	前4年比・差
※だて正夢	大崎市三本木	5月9日 (-1)	63.1 (108%)	445 (94%)	10.9 (+0.9)	45.8 (+3.9)	—	
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月4日 (0)	44.0 (111%)	606 (115%)	10.5 (+2.4)	43.2 (+2.8)	—	
ササニシキ (乾田直播)	大崎市古川	4月2日 (-)	51.6 (-)	708 (-)	9.2 (-)	42.5 (-)	—	新規、前年乾直 条間30cm
ひとめぼれ (乾田直播)	大崎市古川	4月19日 (-)	42.6 (-)	651 (-)	10.3 (-)	42.0 (-)	—	新規、大豆後 条間24cm
平均 (移植栽培) (平年値のあるほ場のみ)		5月8日 (-1)	57.1 (107%)	512 (96%)	10.8 (+0.8)	44.1 (+0.6)	—	

※田植日の+は遅いことを、-は早いことを示す。

※平年比・差は前5か年（令和元～5年）の平均値との比較。「つや姫」は前4か年（令和2～5年）の平均値との比較。

表 2 出穂期の予測

田植時期	田植始期	田植盛期	田植終期
	4月28日	5月9日	5月18日
幼穂形成始期	6月27日	7月4日	7月10日
減数分裂期	7月8日	7月15日	7月20日
出穂期	始期	最盛期	終期
	7月24日	7月29日	8月2日
平年（前5か年）との差	5日早い	3日早い	4日早い

出穂期は8月1日頃で、平年(県北部)並と推定されます。
ただし、幼穂形成始期後に高温で推移すると、出穂期はさらに早まる可能性があります。

※7月2日現在(7/1まではR6年値、7/2以降は前11年平均値で計算)

3 追肥

基肥の窒素肥効が無くなり、籾数の不足や登熟不良が予測される場合は追肥によって生育調整を図りましょう。

～ 近年の品質低下（白未熟粒の発生）について ～

近年は穂揃期の葉色低下や高温登熟により、白未熟粒等が発生し品質低下することが多くなりました。葉色の急激な低下（窒素栄養の不足）を防ぐため、適切な追肥を検討しましょう。

●追肥の主な効果

追肥は白未熟粒の発生軽減や光合成能力の向上等の共通した効果に加え、施用時期によっても異なる効果が現れます。

表3 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

●追肥の目安（施用時期・施用量）

品種によって施用時期・施用量が異なります。施用時期と葉色を判断し、適正量を施用しましょう。「だて正夢」の幼穂形成期までの生育量が少ない場合は、幼穂形成期・減数分裂期にそれぞれ「窒素成分 1.0kg/10a」ずつ追肥することで、適正粒数の確保に努めましょう。

表4 追肥の目安

品種名	幼穂形成期（幼穂長:1~2mm） 出穂25~20日前		減数分裂期（幼穂長:30~120mm） 出穂15~10日前	
	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）
ひとめぼれ	1.0kg	38~40	1.0kg	35~37
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg	32~34
つや姫	2.0kg	35~37	—	—
だて正夢	—	—	2.0kg	37~39
金のいぶき	1.0kg	33~35	1.0kg	30~32
まなむすめ	2.0kg	35~37	—	—

4 水管理 幼穂の発育には水の吸収が不可欠

- ✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう。

低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがあるので、深水管理を行いましょう。

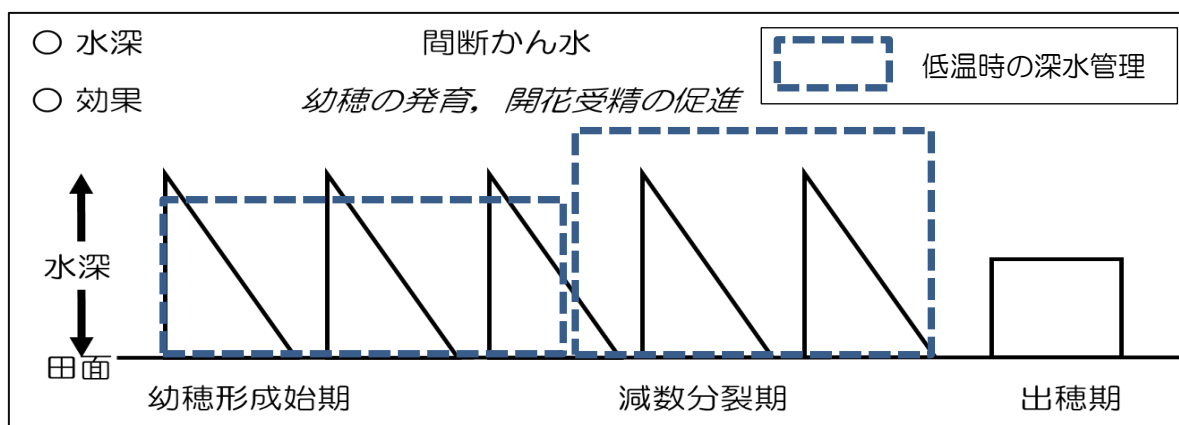


図2 今後の水管理

東北地方 1 か月予報
(6月29日から7月28日までの天候見通し)

令和6年6月27日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。平均気温は、高い確率80%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	10	80
【降水量】	東北地方	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	10	20	70
3~4週目	東北地方	20	30	50

◆◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動(6月1日~8月31日)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

運動のテーマ 「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

★★

古川農業試験場では、「だて正夢」、「金のいぶき」、乾田直播、湛水直播の生育調査結果をホームページ(<https://www.pref.miyagi.jp/site/seikuzuyoho/index.html>)で公表しています。次回公表日は7月4日予定です。

★★

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

